

■ 期末考査に向けて



7月14日(火)～16日(木)まで1学期の期末考査が実施されます。2週間前となりましたので、少しずつ準備を進めていきましょう。特に今回は、5月18日(月)～29日(金)の中で分散登校もありましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため4月21日(火)～5月17日(日)まで臨時休校となり、基本的にオンライン授業であったため、普段の授業のときよりも理解度が低い状態の生徒も多いのではないかと思います(逆のケースもあるのかもしれませんが・・・)。また、中間考査が中止となったため、試験範囲が通常よりも広くなることも考えられます。したがって、入念に準備して考査に臨む必要があります。特に3年生にとっては、進路活動に大きく影響する考査となりますので、より高い意識を持って準備するようにしてください。

日本学生支援機構の奨学金の予約採用を希望する生徒で、「給付型」、「貸与型の第一種」を考えている場合は、評定平均値3.5以上ないと申込み資格がありませんので、その点もよく確認しておいてください。今回の期末考査の結果を受けて、予約採用の申込みを考えている諸君は、3回目(最後)の申込み締切までぎりぎりとなりますので、申込みを忘れないよう、十分に気をつけてください。

■ 同一校、同一社に複数志望者がいる場合の対応

先日、今年度の本校の推薦基準が発表されました。指定校制および公募制の希望を問わず、よく確認しておきましょう。



3年生諸君で、大学や専門学校の指定校推薦もしくは就職希望者の入社試験において複数の希望者がいて、人数制限枠を超えた場合には、先生方の推薦会議で学業成績や部活動の実績、委員会活動、普段の生活態度などが総合的に判断されたうえで該当者が決定します。したがって、推薦会議で推薦されなかった場合には、希望の学校や企業を受験できないケースがあります。あらかじめ、理解しておいてください。

志望校や志望企業については、各クラス担任を通じて、1学期中には把握し、進路指導係としてもしっかりと対応していきたいと考えています。

■ 指定校推薦一覧表の発表時期について

今年度の大学・短大の指定校推薦一覧については、7月16日(木)に発表する予定です。年度ごとに基準が異なる大学・短大もあるため、基本的に3年生のクラスだけに配付したいと思います。評定平均値等、確認してください。専門学校については、進路指導室に直接確認しに来てください。なお、1・2年生で指定校推薦について確認したい場合には、進路指導室に来室してください。

■ 大学入学共通テスト等の日程について

ニュースや新聞等で報道されていますが、大学入学共通テストをはじめ、各入試の日程が発表されました。

文部科学省から、大学入学共通テストは来年1月16日（土）～17日（日）、私立大学の一般入試は来年2月から予定どおり実施する案が提示されました。9月から出願が始まる総合型選抜



（旧AO入試）については2週間繰り下げ、学校推薦型選抜（旧推薦入試）は11月から予定どおり行うとしています。ちなみに、学校推薦型選抜では、指定校推薦も含めて、昨年度まで無かった「何らかの課題に基づくプレゼンテーション（発表）」が、少なくとも数分程度で課されるケースもあるようです。

高校側から「学習の遅れ」を心配する声も上がっていましたが、そういったことへの対応としては、共通テストの追試験を本試験の2週間後の来年1月30日（土）～31日（日）に設定するとのこと。さらに、文部科学省は大学側が入試問題を作成するうえでの配慮も要請し、高校3年生で学ぶことが多い数学Ⅲ、物理、化学、生物では発展的な学習内容から出題しないよう、出題範囲の削減や選択問題を増やすことなどを求めたとのこと。このことについては、最終決定ではありませんので、動向に注意してください。

大学入試について、ある程度、見通しが立ちましたので、3年生諸君は雑念に振り回されることなく、「志望校合格」に向けてしっかりと準備し、悔いが残らないように着実に努力を重ねてほしいと思います。

■ 就職試験の日程について

すでに担任の先生を通して3年生の各クラスには連絡をいただいておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、全国の高等学校で臨時休業期間があったことによって、新規高等学校卒業者の就職準備期間が短くなり、生徒が不安を抱えたり、不十分な準備のまま就職活動に臨んだりすることが懸念されるため、下記のように後ろ倒しの形で変更が生じました。しっかり準備して採用試験に臨みましょう。なお、7月1日（水）に求人票が開示になりますが、本校では7月8日（水）までに就職希望者に示せればと考えております。少し遅くなってしまいますが、裏面で触れる日本学生支援機構の予約採用の手続きも筆者が担当しており、7月の最初の週はそちらに集中したいため、ご了承願います。その他、就職関係の情報については、随時お知らせいたします。



○変更点

- ・新規高等学校卒業予定者の推薦開始日：10月5日（月）～
※各企業における履歴書などの書類の受付開始日。例年は9月5日～
- ・新規高等学校卒業予定者の選考開始日：10月16日（金）～
※各企業における採用試験が実施される日。例年は9月16日～

○一人一社制については検討中（6月12日現在）とのこと。

※例年であれば、9月中は複数（2社）の企業に同時に出願できません。10月以降は、志望企業で他者への出願を認める場合に、2社まで出願できます。今年度は10月16日が選考開始日となるため、初めから複数の企業への応募が認められる可能性もあるかもしれません。現時点では検討中とのこと。決定後、就職希望者にお伝えします。

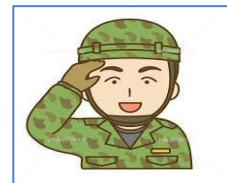
■ 日本学生支援機構・予約採用申込みにおける注意事項

日本学生支援機構の予約採用についてです。インターネット申込みの2回目は6月30日(火)までで、慌てるとミスが出る可能性があることから、これからインターネットでの申込みをされる場合には3回目の7月1日(水)～7月31日(金)まででお願いいたします。2回目の結果通知は11月下旬、3回目の結果通知は12月下旬にそれぞれ届くことになっていますが、通知の内容が具体的に必要になるのは、来年3月ごろの大学、短大、専門学校の入學手続きの際ですので、基本的に2回目で申し込まれても、3回目で申し込まれても大差はないかと存じます。いずれにしても、手書き書類の確認書(①給付型のみ、②貸与型のみ、③給付型と貸与型の両方のいずれか3つのタイプになります)の提出は必須となります(※2回目でネット申込みをされた場合には7月3日(金)までに、3回目でネット申込みをされる場合には7月17日(金)までに確認書をご提出ください。2回目については、当初は本日(6月29日(月))までとしておりましたが、まだ提出していない人がいますので、7月3日(金)までに変更しました。3回目については期日厳守(7月17日(金)まで)でお願いいたします)。記入の際の注意事項はお子様に念を押して話しておりますが、これまでに何人かミスがありました。日本学生支援機構の書類チェックは厳格ですので、ご注意ください。なお、間違えた場合には、学校で配付するコピー用紙(両面刷り。裏面は約款。約款がないものは無効となります)での対応をお願いいたします。その他の書類については、各ご家庭の状況に応じてご提出いただくこととなります。「申込みのてびき」の「様式集」でご確認ください。最後になりますが、例年、マイナンバー提出に関するトラブルが多いようです。マイナンバーについては、インターネットで申し込んだ後1週間以内に各ご家庭から、「マイナンバー提出書」の水色の封筒に同封されている封筒を利用して送付していただくことになっております。学校の方でタッチできませんので、各ご家庭で対応していただきますよう、お願いいたします。



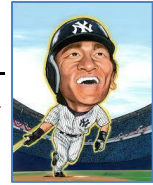
■ 自衛隊(警察官・消防士)の募集について

自衛隊の募集について、今年度も例年どおりの日程で実施される予定とのことです。自衛隊の採用試験で出題された過去2年分の問題が進路指導室にありますので、受験希望者は、コピーを受け取りに来てください。「国民の命を守る」という大事な役割を担うわけですから、高い意識を持って試験に臨む必要があります。学力試験では、これまでよりも若干高い水準が要求されるとのことです。基礎学力の向上にも努めましょう。



なお、今年度は公務員関係ですと、自衛隊以外に消防士の希望者が多いようです。過去10年間を振り返ると、本校の卒業生で高校在学中に消防士に採用された例としては、平成26年度卒業生で双葉地方広域市町村圏組合消防本部に2名採用されたケースがありますが、それ以外は1人もいませんでした。近年、本校の警察官志望者が激減したことから警察の採用数は減ってきましたが、基本的に自衛隊や警察(福島県警など)については、年に1~2人くらいのペースで採用されていきましたので、消防士の採用は非常に厳しい印象があります。希望者は特に基礎学力をしっかりと身につけておくことが望まれます。ちなみに、先日いわき中央署の方が警察官の募集のために来校されました。「公務員ということもあり、高卒でも給与の面で心配することはなく、職場の雰囲気も悪くない」と話していかれました。その後、生徒諸君と話す機会がありましたが、「警察」というと、どうしても近寄りやすいイメージが先行するようです。しかし、実際にはそのようなことはないとのことでしたので、自衛隊、消防士などを考えている諸君は、同様に「使命感のある仕事」ということで、警察を選択肢の一つに入れてみるのも良いのではないのでしょうか?

■ 甲子園、インターハイの中止を受けて



5月20日(水)に今夏の甲子園球場での第102回全国高等学校野球選手権大会および全49代表(北海道と東京は各2校)を決める47都道府県での地方大会を中止とするとの発表が、主催者の朝日新聞社と日本高等学校野球連盟からありました。これを受けて、野球部主将の小松大介君が福島中央テレビ(FCT)の夕方の報道番組の中で、アナウンサーからインタビューされ、悔しさ、無念さを話していました。特に昨年は春の県大会で優勝しながら、甲子園を懸けた夏の県大会では優勝まであと一步のベスト4だったということで、昨年度卒業生の悔しさを背負って臨もうとしていた大会ただだけに、新型コロナウイルス感染拡大防止のためとは分かっている、何とも言えない心境だったのだろうと感じられました。

これよりも先の4月26日(日)に、夏の全国高等学校総合体育大会(インターハイ)の中止が決定されました。これを受けて、インターハイ県予選や地区予選の中止が多く、専門部で決定されたかと思えます。筆者も地区卓球専門部の委員長をしていますので、選手諸君がこれまでがんばってきた成果を発揮する機会が持てなかったことに対しては苛立ちを禁じ得ません。一方、地区大会や県大会を開催することで感染拡大につながったら・・・と考えたとき、中止の判断はやむを得ず、正しいものだったと受けとめています。

大会(全国レベルの競技大会)自体が無くなったわけですから、以下に記すことは少し観点が違う話になってしまうかもしれませんが、巨人やニューヨーク・ヤンキースなどで活躍した松井秀喜さんが引退から約2年後の2015年2月に出版した『エキストラ・イニングス -僕の野球論-』(文藝春秋)の中に参考にしてほしい文章がありましたので紹介します。この本は松井さんが2013年3月から2014年11月にかけて新聞各紙で続けた連載に加筆したものです。「苦い思い出」と題された項目で以下のように記しています。「母校の星稜高が2014年夏の石川大会決勝で九回に8点差を逆転し、甲子園行きを決めた。素晴らしい粘りだった。ただ僕はどうしても敗れた小松大谷高のことを考えてしまう。甲子園の土を踏むことを目標にプレーする高校生にとって、地方大会決勝での逆転負けよりショックなことはないと思う。甲子園での敗者のドラマが毎年注目されるが、一番残酷な現実を高校球児に突きつけるのは、甲子園行きを懸けた1試合での明暗なのではないか。敗れた彼らはその後どうしているだろう。なぜあんなったのか、どうすれば良かったのか。特に3年生は毎日のように考えたと思う。何度も脳裏によみがえるのは、勝利でなくいつも敗戦だ」。松井さんは「プレーしなくなって2年以上たっても、気が付くと負け試合のことを考えている時がある」と語っています。そのうえで、「巨人の長嶋茂雄監督は『野球は人生そのものだ』と言った。これは野球に人生の全てを懸けたということであると同時に、野球が人生の縮図だという意味でもある。～中略～失敗を糧に成功を収めても、悔しさは残る。悔しさという感情と、敗戦を未来に生かす論理的思考は別のものだ。忘れられない。だから人生の糧になるのだ。失敗から生まれる悔しさや恥ずかしさがあれば、人は自分を見つめることになる。そういった感情を簡単に忘れない方がいいのではないか」。野球部に限らず、みなさんにどう伝えれば良いのか本当に言葉が見つかりませんが、松井さんはおそらく今回のことを受けて、「コロナウイルスにより夏の甲子園大会やインターハイが中止になった悔しさ、無念さを忘れることなく、仲間たちと培ってきた友情をしっかりと胸に刻んで歩んでほしい」と述べるのではないかと想像します。

全国大会中止に伴う3年生に対しての救済措置を取るために、高等学校野球連盟や各競技専門部でいろいろと検討が進められてきた(進められている)ことと思われま。最終的に3密(密閉・密集・密接)防止の観点から、何らかの大会を開催することは難しいという結論に至るケースもあるのかもしれませんが、それでも、どうかしっかりと前を向き、次のステップに向けて努力を続けていってほしいと思います。今は分からなくても、「コロナウイルスのことがあったから今がある」と、将来胸を張って振り返ることができるよう・・・と願うばかりです。ちなみに、野球については県大会規模の大会開催が決まり、その後のFCTのインタビューに小松君は、「やるからには、“てっぺん”取ります!!」ときっぱり誓っていました。心強い限りです。

文責：清水聖(進路指導主事)